



日本消化器癌発生学会

News Letter

<http://plaza.umin.ac.jp/~jsgc/>

2004 No.1

第15回日本消化器癌発生学会準備報告

この度、第15回日本消化器癌発生学会総会を札幌で開催させていただきますことを、大変光栄に存じます。本年度は第15回の節目にあたり、総会が有意義な会となるよう、鋭意準備中であります。学術集会は、平成16年8月19日、20日の二日間、ホテルロイトン札幌で行う予定です。また、本学会は東京大学大学院研究科、上西紀夫教授が会長をされる、第3回国際消化器発癌会議（International Conference on Gastroenterological Carcinogenesis）との共催となります。世界各国から参加される消化器発癌分野の第一人者の諸先生の御講演を拝聴出来ることと存じます。

今回の主題として、Cancer Invasion and Metastasis（癌の浸潤と転移）、Inflammation and Carcinogenesis（炎症と発癌）、Cancer Chemoprevention（癌化学予防）の3つのテーマを選択させていただきました。また、消化器癌における遺伝子異常の網羅的解析や、エピジェネティックな異常、プロテオミクスによる蛋白質の発現状態の解析、SNPs解析によるファーマコゲノミクスといった幅広い研究について発表して頂き、今後、これらの情報をいかに正確に・早急に・適切に利用していくかについて、最先端の研究成果の発表に関して討議する場となることを期待します。さらには、消化器癌の新しい分子標的に関する研究や、消化器癌の化学予防など、臨床的な話題にも焦点をあて、シンポジウム、ワークショップ、ポスター発表を行うことを予定しております。

また特別講演として、MD Anderson Cancer CenterのDr. Jean-Pierre J. Issa教授に、消化器癌におけるエピジェネティックな異常の解析とその臨床応用について、ご講演いただく予定です。

会員の皆様には多数の演題を発表していただき、本会が充実した学会になることを期待しております。8月の北海道は非常に清々しい気候であります。総会とともに、北海道の夏を満喫して頂ければ幸いです。是非、多数の参加をお待ちしております。

第15回日本消化器癌発生学会
会長 今井 浩三
(札幌医科大学学長)



会長 今井浩三先生



会場 ホテルロイトン札幌

目次

第14回日本消化器癌発生学会準備報告	1
第3回国際消化器発癌会議のご案内	2
第14回日本消化器癌発生学会総会報告	3
平成15年度日本消化器癌発生学会議事録	4
国際消化器発癌学会第3回国際会議 第2回組織委員会議事録	5
掲載論文一覧	6
名簿	7
お知らせ	8
編集後記	8

第3回 国際消化器発癌会議のご案内

国際消化器発癌学会では、下記の要領で第3回国際会議を開催いたします（第15回日本消化器癌発生学会総会と共催）。海外からも多くの発癌研究の第一人者が参加され、活発な討議がなされることになっております。また、また国内外の優秀な発表については、Oncology (impact factor 2.5~3.0) のsupplement を発刊し、掲載することを予定しております。

癌の治療にかかわっていらっしゃる先生方、発癌にかかわる研究をされている先生方の積極的なご参加をお待ち申し上げます。

海外からの主なSpeaker

Arber N. (Tel-Aviv,Israel), Beger HG. (Ulm,Germany), Carr BI. (Pittsburgh,USA), DuBois RN. (Vanderbilt,USA), Goldenring J. (Vanderbilt,USA), Harris CC. (NCI,USA), Hawk ET. (NCI,USA), Levin B. (MD Anderson,USA), Lotan R. (MD Anderson,USA), Riddell R. (Mount Sinai,Canada), Semenza G. (Johns Hopkins,USA), Tarnawski A. (California,USA), Wang XW. (NCI,USA), Wright N. (Queen Mary's,UK)

会議概要

会 期：2004年 8月19日（木）～20日（金）

会 場：ロイトン札幌

北海道札幌市中央区北1条西11丁目

TEL：011-271-2711

会 長：上西紀夫（東京大学大学院 消化管外科学）

シンポジウム1：Cancer Chemoprevention

シンポジウム2：Cancer Invasion and Metastasis

シンポジウム3：Inflammation and Carcinogenesis

Evening Symposium：

Gastric Mucosal Cell Lineage and Gastric Cancer

概要は日本消化器癌発生学会ホームページ (<http://plaza.umin.ac.jp/~jsjc/>) をご参照下さい。

夏休みを兼ねて北海道で勉強し、そして大いに楽しんでいただきたく、多数の先生方のご参加を心よりお待ちしております。



癌化学療法を支えるラインアップ

■抗悪性腫瘍剤(ピリミジン系代謝拮抗剤)

5-FU注 250 協和
5-FUドライシロップ 協和
5-FU錠 50・100 協和
5-FU軟膏 協和
5-FU坐剤 100 協和

■アントラサイクリン系抗癌性抗生物質

アドリアシン注
ファルモルピシン注
ファルモルピシンRTU注射液

■抗悪性腫瘍剤(白金製剤)

プラトシン注 10・25・50

■ビンカルカロイド系抗癌性腫瘍剤

ナベルピ注 10・40

■マイトマイシン系抗癌性抗生物質

マイトマイシン注用 2mg
マイトマイシン注用 10mg

■抗悪性腫瘍剤(アルキル化剤)

タカルバシン注 協和

■抗悪性腫瘍酵素製剤

ロイナゼ注

■抗悪性腫瘍経口黄体ホルモン製剤

ヒスロンH 200

■遺伝子組換えヒトG-CSF誘導体製剤

ノイアップ注 25・50・100・250

■白血球減少症治療剤

ロイコブロール

■5-HT₂受容体拮抗型制吐剤

ナボパンカプセル 5mg

(資料請求先)

協和発酵工業株式会社
 東京都千代田区大手町1-6-1
<http://iyaku.kyowa.co.jp/>

*「効能・効果」、「用法・用量」、「使用上の注意事項」は製品添付文書をご参照ください。

03.08

第14回 日本消化器癌発生学会総会報告

第14回日本消化器癌発生学会総会は、平成15年9月11日（木）、12日（金）の二日間、金沢大学大学院医学系研究科がん局所制御学教授の三輪晃一当番会長の主催で、石川県金沢市のホテル日航金沢を会場として開催されました。今回の主題を「消化器における癌予防」とさせていただきますが、癌予防は、遺伝子治療、再生医療などととも、21世紀の医学における重要なテーマのひとつであると考えられています。

近年、いわゆる前癌病変と考えられている疾患（大腸腺腫、ヘリコバクター胃炎、C型肝炎など）が急増しており、癌の発生そのものを抑制する「予防」の考え方が注目されるようになってきました。大変難しいテーマでありましたが、全部で91題の演題応募があり、疫学的、臨床的、分子生物学的なアプローチから、多角的な検討がなされました。また癌の中でも発生頻度の高い胃癌、大腸癌、肝癌に対する予防をテーマに、三つの特別シンポジウム「消化器癌の予防」が企画されました。それぞれの癌の基礎的、疫学的、臨床的分野においては、わが国をリードする研究者をお招きして講演が行われました。胃癌においては食物と発癌の関係や、ヘリコバクター・ピロリ菌除菌による癌予防の可能性が報告され、大腸癌では、小麦ふすまや乳酸菌によるポリープ発生予防に対する大規模臨床介入試験の結果に注目が集まっております。肝癌のセッションではインターフェロンやレチノイドによる予防が報告されており、最も臨床的に進んでいることが実感されました。いずれもレベルの高い内容

に出席した会員一同は大変満足され、癌予防の現況を十分理解されたものと思っております。

さらに、米国ジョーンズ・ホプキンス大学のJohn W. Harmon教授をお招きして、特別講演「New Strategies for the Prevention of Gastrointestinal Cancer」と題しまして、十二指腸液の食道への逆流がもたらす影響、Barrett食道・食道腺癌の発生とその予防、日米ともに増加している大腸癌の芽ともいえる大腸ポリープに対する化学予防などについて、up-to-dateな話題を提供していただきました。また会長の三輪晃一からは「逆流と前腸発癌」と題して、教授のlife workである十二指腸液の逆流による胃や食道の発癌について、膨大な実験の成績や、実地臨床における経験から、非常に興味深い講演が行われました。

本会が、癌予防研究の今後の発展に寄与することになれば望外の喜びであるとともに、ご参加をいただいた方々のご協力をいただいた金沢大学大学院医学系研究科がん局所制御学の皆様に感謝申し上げます。

第14回日本消化器
癌発生学会事務局
担当：藤村 隆



中外製薬

Roche ロシュグループ

5-HT₃受容体拮抗型制吐剤

劇薬、指定医薬品、要指示医薬品^{注)}

薬価基準収載

カイトリル
KYTRIL® 塩酸グラニセロン製剤

注射液
錠1mg・2mg
細粒

注) 注意—医師等の処方せん・指示により使用すること

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意、用法・用量に関連する使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。

〔資料請求先〕

輸入製造発売元

中外製薬株式会社

〒104-8301 東京都中央区京橋2-1-9



Herbert von Karajan
Authorized by "Herbert von Karajan Centrum GmbH"
Photograph © Akira Kinoshita

2003年5月作成

平成15年度 日本消化器癌発生学会議事録

役員選考

日時：平成15年9月10日（水）13：00～14：00
会場：ホテル日航金沢 5階 松の間
出席：上西 紀夫、杉町 圭蔵、寺野 彰、三輪 晃一
（五十音順、敬称略）

1) 名誉会員、特別会員について

本学会会則・施行細則に従い、名誉会員として小川道雄先生を、特別会員として小西陽一、平山廉三、松本由朗、武藤徹一郎の各先生を推薦することが確認された。

2) 監事、各種委員について

現監事の小川道雄先生が定年を迎えられることを受け、後任として佐治重豊先生を推薦することが決まった。

各種委員会について、財務委員会の担当理事に小西文雄先生、委員長に上西紀夫先生、新委員として今井浩三、北島正樹、平田公一、三輪晃一、門田守人の各先生を推薦することになった。編集委員会の編集幹事の伊東文生先生が転勤されたことを受けて、今井浩三先生の教室の有村佳昭先生が後任に指名された。国際委員会委員として平田公一先生、在り方委員会委員長として森正樹先生を推薦することになった。

3) 新評議員について

本会の活性化を目指すために、会則委員会より、会則第4章第11条役員（2）理事の定数を現行の10名以上15名以内から10名以上20名以内、（3）評議員の定数を現行の正会員の10%以内から、正会員の10%以上20%以内、と改正することが提案され臨時理事会で承認されている。総会での承認を受ける前ではあるが、前例として新評議員の推薦を募集したところ、38名の応募があった。会則に照らし合わせ、適確と判断された26名を新規評議員として推薦することになった。

4) その他

理事の定員が増加し、来年度定年を迎えられる先生がいっぱいあることを受けて、新理事を公募することになった。各評議員の先生方へ郵送で告知するとともに、ホームページ上でも告知することが決定した。

次々期会長として、森正樹先生を推薦することになった（後ほどの理事会で辞退されたため、現時点では未定であり新理事を含めて検討することになった）。

附) 名誉会員・特別会員名簿

役員名簿

評議員名簿

各種委員会担当理事・委員長・委員

会則改定案

編集委員会

日時：平成15年9月10日（水）14：00～14：30
会場：ホテル日航金沢 5階 松の間
出席：今井 浩三、小俣 政男、上西 紀夫、桑野 博行、小西 文雄、杉町 圭蔵、立松 正衛
（五十音順、敬称略）

1) これまでのJECRC掲載状況について、2002年（第21巻）以後の既掲載論文、および印刷中論文、査読中論文のリストが報告された。2002年～2003年第2号までの既掲載論文は18編である。

2) JECRCにかわる機関誌として現在数誌と交渉中であるが、交渉の進捗状況が杉町理事長から説明があった。まず、Cancer、International Journal of Cancer、Journal of Cancer Research and Clinical Oncology、Journal of Gastroenterology and Hepatologyが交渉中の雑誌として紹介された。当方の条件として、日本消化器癌発生学会の Official Journal であることを雑誌のどこかに明記してもらうこと、年間10編から20編を掲載すること、協力金を支払う用意があることを条件に交渉をすすめていることが報告された。現在、国内で査読作業を終了した後JECRC事務局へ論文を送送しているが、同様に国内での査読でacceptされた論文は無条件で掲載してもらう方向で交渉を進めるものの、候補雑誌の中にはすでに海外の学会機関誌であるものもあり（例えば、Cancerは米国癌学会の機関誌であること、Journal of Cancer Research and Clinical Oncologyはドイツ癌学会の機関誌であることなど）、その学会事務局の意向も含めて先方で検討されるであろうことが報告された。なお、新機関誌が決定するまでは、JECRCを学会機関誌

として継続することが確認された。

3) 編集委員会委員の小西陽一先生の定年にともない、新委員として服部隆則先生が役員選考委員会で承認されたことが報告された。

JECRCの2002年Impact factorは0.754（昨年0.703）であることが紹介された。

国際委員会

日時：平成15年9月10日（水）14：30～15：15
会場：ホテル日航金沢 5階 松の間
出席：今井 浩三、上西 紀夫、杉町 圭蔵、立松 正衛、田原 栄一、寺野 彰、磨井 正義、森 正樹、門田 守人、安井 弥
（五十音順、敬称略）

1) 国際消化器癌学会第3回国際会議の開催と参加について

第1回（広島）、第2回（ウルム）に続く第3回国際会議が2004年札幌で開催される予定であるが、それに至る経緯が説明された。当初2001年オックスフォードで開催される予定であったが、諸事情で2002年ミュンヘンでの開催に変更になった。その後、国際情勢の変化にともない開催中止となったため、ヒューストン（バーナードレビン教授）での開催で準備を進めていたが、予定された参加者が少なく開催が困難な状況となった。そこで、再び日本での開催となり、2004年8月日本消化器癌発生学会（札幌）との共同開催の形で開催される予定である。

これにともない、2003年6月に第1回組織委員会が東京で開催され、国内学会と国際学会とを並行で開催する予定であること、スライド・ポスターをすべて英語とすること、国際学会招待講演者に国内学会でも講演してもらうことなどが検討中であることが報告された。

2) 第4回国際会議は、2006年ヒューストン（バーナードレビン教授）で予定されていることが報告された。場所は未定である。

3) 国際消化器癌学会（ISGC）規約により、ISGCのBoard of directorは任期6年、20～36名で構成されるため、現在あと数名の空席がある。これに日本人を推薦することや、将来のISGCの活性化につながるような研究者、アジア地域のactiveな研究者を積極的にBoard of directorに推薦してはどうかということが話し合われた。

理事会

日時：平成15年9月10日（水）15：15～16：30
会場：ホテル日航金沢 5階 松の間
出席：愛甲 孝、今井 浩三、上西 紀夫、小西 文雄、杉町 圭蔵、立松 正衛、寺野 彰、平田 公一、磨井 正義、三輪 晃一、森 正樹、門田 守人、安井 弥
（五十音順、敬称略）

1) 前回理事会議事録確認

2) 庶務報告：事務局幹事より会員数について、この一年間で会員は69名減少し、本年8月末日現在823名であることが報告された。

3) 財務報告：磨井担当理事より平成14年度会計報告、および平成15年予算案が報告された。会費の納入率が約7割と低いことが指摘され、改善策の検討を要することが確認された。

4) 会則委員会報告：愛甲委員長より会則の変更について報告があった。本会の活性化のために理事の定員を10名以上20名以下に、評議員の定員を正会員の10%以上20%以下に変更することを提案し、先の臨時理事会において承認されたことを確認した。

5) 役員選考委員会報告：三輪担当理事より、名誉会員として小川道雄先生を、特別会員として小西陽一・平山廉三・松本由朗・武藤徹一郎の各先生方を推薦することが報告された。また、監事として佐治重豊先生を推薦した。各種委員会の変更と新評議員についても説明された（詳細は役員選考委員会議事録参照）。

6) 編集委員会報告：上西担当理事より掲載状況が説明された。その後、機関誌について現行のJECRCから、より良いジャーナルへの変更を目指して現在3社の出版社と交渉中であることが杉町理事長より報告された。

7) 国際委員会報告：安井委員長より第3回国際消化器癌発生学会総会の延期が続いていた経緯が報告され、第3回を上西理事を当番会長として日本で本会総会と併催で行うことが報告された。

8) G-project 委員会報告：今井担当理事より進行状況についての報告があった。臓器別に組織を作成し、第15回の本会総会において一応の成果発表をシンポジウムの形式で行う予定である。

9) 在り方委員会報告：門田担当理事より、機関誌の検討と学会のアイデンティティーを高める方策として学会賞の制定やホームページの充実などの検討が提案された。

10) 総務委員会報告：上西委員長よりニュースレターの発行状況とホームページのアップデートについての報告があった。

11) 第13回学会総会報告：門田守人先生より報告があった。2002年9月5・6日に大阪千里にて行い、109題の演題と254名の有効出席者があったことが報告された。

12) 第14回学会総会報告：三輪晃一先生より報告があった。発癌の予防をメインテーマに取り上げて学会を行うことが報告された。

13) 第15回学会総会準備報告：今井浩三先生より報告があった。平成16年8月19・20日の2日間、札幌のロイトン札幌で行われることが報告された。第3回国際消化器癌発生学会総会と共催の形となることも併せて報告された。

14) 第16回学会総会について：愛甲孝先生よりご挨拶があった。

15) 第17回学会総会について：森正樹先生を推薦したが、ご本人の希望でもう少し後にしたいとのことで、新理事を含めて推薦者を募ることになった。

国際消化器癌学会第3回国際会議第2回組織委員会議事録

日時：平成15年9月10日（水）16：30～17：00
会場：ホテル日航金沢 5階 松の間

1) 組織委員会について

国際消化器癌学会第3回国際会議の組織委員会の構成が説明された。

2) 海外招聘者について

第2回組織委員会で出された海外招聘者候補者リストが紹介された。今後もういちど登録組織委員会の委員に海外招聘者候補者をつくる予定であることが報告された。

3) 今後の予定について

ファーストサーキュラーがすでに作成され配付された。2)で新たに作成した海外招聘者候補者に基づき、2003年秋をめどに海外招聘者を決定し、2004年初めにセカンドサーキュラーを配付予定であること、第3回組織委員会が2004年初めに開催予定であることが報告された。

4) 会計について

募金趣意書が紹介され、今後募金活動を行うことが報告された。趣意書は国内学会、国際学会それぞれに作成した方が有利である可能性が話し合われた。

5) その他

日本消化器癌発生学会との共同開催の形式について、国内学会と国際学会との並行開催の案が出されているが、1例として国内学会を午前、国際学会を午後とするという配列にする案もだされた。今後、演題数、海外招聘者数なども考慮して検討することになった。

評 議 員 会

日時：平成15年9月10日（水）17：00～18：00
会場：ホテル日航金沢 3階 孔雀の間

1) 庶務報告：事務局幹事より会員数について、この一年間で会員は69名減少し、本年8月末日現在823名であることが報告された。

2) 財務報告：磨伊担当理事より平成14年度会計報告、および平成15年予算案が報告された。会費の納入率が約7割と低いことが指摘され、改善策の検討を要することが確認された。

3) 会則委員会報告：愛甲委員長より会則の変更について報告があった。本会の活性化のために理事の定員を10名以上20名以下に、評議員の定員を正会員の10%以上20%以下に変更することを提案し、先の臨時理事会において承認されたことを確認した。

4) 役員選考委員会報告：三輪担当理事より、名誉会員として小川道雄先生を、特別会員として小西陽一・平山廉三・松本由朗・武藤徹一郎の各先生方を推薦することが報告された。また、監事として佐治重豊先生を推薦した。各種委員会の変更と新評議員についても説明された（詳細は役員選考委員会議事録参照）。

5) 編集委員会報告：上西担当理事より掲載状況が説明された。その後、機関誌について現行のJECRCから、より良いジャーナルへの変更を目指して現在3社の出版社と交渉中であることが杉町理事長より報告された。

6) 国際委員会報告：安井委員長より第3回国際消化器癌発生学会総会の延期が続いていた経緯が報告され、第3回を上西理事を当番会長として日本で本会総会と併催で行うことが報告された。

7) G-project 委員会報告：今井担当理事より進行状況についての報告があった。臓器別に組織を作成し、第15回の本会総会において一応の成果発表をシンポジウムの形式で行う予定である。

8) 在り方委員会報告：門田担当理事より、機関誌の検討と学会のアイデンティティーを高める方策として学会賞の制定やホームページの充実などの検討が提案された。

9) 総務委員会報告：上西委員長よりニュースレターの発行状況とホームページのアップデートについての報告があった。

10) 第13回学会総会報告：門田守人先生より報告があった。2002年9月5・6日に大阪千里にて行い、109題の演題と254名の有効出席者があったことが報告された。

11) 第14回学会総会報告：三輪晃一先生より報告があった。発癌の予防をメインテーマに取り上げて学会を行うことが報告された。

12) 第15回学会総会準備報告：今井浩三先生より報告があった。平成16年8月19・20日の2日間、札幌のロイトン札幌で行われることが報告された。第3回国際消化器癌発生学会総会と共催の形となることも併せて報告された。

13) 第16回学会総会について：愛甲孝先生よりご挨拶があった。

14) 第17回学会総会について：当番会長は現時点では未定であり、新理事を含めて推薦者を募ることになった。

あり方委員会

日時：平成15年9月11日（水）8：00～8：45
場所：ホテル日航金沢 5階 梅の間
出席：今井 浩三、井藤 久雄、上西 紀夫、杉町 圭蔵、森 正樹、門田 守人（五十音順、敬称略）

1) 学会誌について

2003年9月10日編集委員会での杉町理事長からの経過説明にもとづき、学会誌の今後について協議された。supplementとして発行する場合と、学会の機関誌としてレギュラーに掲載する場合の2通りの考え方があがるが、supplementでの掲載のほうが交渉はよりスムーズにすすむものの、発行にかかる経済的な事情や、外部からの評価をうける場合にsupplementでの掲載論文は評価がやや低くなる恐れがあることを考慮し、基本的には後者の立場をとることが話し合われた。その場合に掲載論文の質に対して、先方の信頼を得るために、Editorial boardに本学会からeditorをゲストとしてinviteしてもらうなどの方法が提案された。なおこれまでCancer誌にsupplementを2回発行しているが、それぞれ約800万円がかかったことが報告された。

また、supplementの形ではなく、年1回ある号だけその学会の優秀論文を掲載している雑誌があることが紹介された。そのような形式で本学会の機関誌となりうる雑誌としてAnnals of Surgical Oncology（米国のSociety of Surgical Oncologyの機関誌）が森委員長から提案された。杉町理事長が現在交渉中である4誌（Cancer, International Journal of Cancer, Journal of Cancer Research and Clinical Oncology, Journal of Gastroenterology and Hepatology）に加えて、杉町理事長に交渉を依頼することとなった。

著 者	所 属	論 文 名	掲 載
藤井 茂彦	獨協医科大学病理学	Usefulness of Analysis of p53 Alteration and Observation of Surface Microstructure for Diagnosis of Ulcerative Colitis-Associated Colorectal Neoplasia	Vol.22.n1.2003.107-115
甲斐原 司	獨協医科大学病理学	Dedifferentiation and Decreased Expression of Adhesion Molecules Ecadherin and ZO-1, in Colorectal Cancer are Closely Related to Liver Metastasis	Vol.22.n1.2003.117-123
小室 安宏	東京大学腫瘍外科	Prediction of Tumor Radiosensitivity in Rectal Carcinoma Based on p53 and Ku70 Expression	Vol.22.n2.2003.223-228
上野 秀晃	広島大学原爆放射能医学研究所腫瘍外科	Prediction of Lymph Node Metastasis by p53, p21waf1, and PCNA Expression in Esophageal Cancer Patients	Vol.22.n2.2003.239-245
石川 晋之	熊本大学第2外科	Identification of Genes Related to Invasion and Metastasis in Pancreatic Cancer by cDNA Representational Difference Analysis	Vol.22.n2.2003.299-306
福島 俊彦	福島県立医科大学第2外科	Mutational Analysis of TGF- β Type II Receptor, Smad2, Smad3, Smad4, Smad6 and Smad7 Genes in Colorectal Cancer	Vol.22.n2.2003.315-320
沖元 達也	広島大学第2外科	Gene Therapy for Rat Liver Metastatic Tumors by Intra-Hepatic Arterial Injection of AdCMV-p53 Combined with CDDP	Vol.22.n3.2003.399-406
石井 雄二	東京慈恵会医科大学外科	A Study on Network about Angiogenesis-Related Matrix Metalloproteinases in Primary Hepatocellular Carcinoma	Vol.22.n3.2003.461-470
伴場 裕巳	埼玉医科大学総合医療センター第1内科	Expression of Cyclooxygenase-2 in Human Hyperplastic Gastric Polyps	Vol.22.n3.2003.425-430
大野 敬祐	札幌医科大学第1外科	Metastatic-Associated Biological Properties and Differential Gene Expression Profiles in Established Highly Liver and Peritoneal Metastatic Cell Lines of Human Pancreatic Cancer	Vol.22.n4.2003.623-631
渡辺 敦光	広島大学原爆放射能医学研究所	Acquisition of a Gastric or Duodenal Phenotype on Heterotopic Transplantation of Esophagus and Bladder Tissues in F344 Rats	Vol.22.n4.2003.619-622
野添 忠浩	福岡歯科大学一般消化器外科	Clinicopathologic significance of Cyclin A Expression in Colorectal Carcinoma	Vol.23.n1.2004.127-133
黒川 幸典	奈良先端化学技術大学院大学大正製薬ゲノム解析講座	PCR-array Gene Expression Profiling of Hepatocellular Carcinoma	Vol.23.n1.2004.135-141
国安 弘基	奈良県立医科大学附属がんセンター腫瘍病理	Promoter CpG hypermethylation and repression of MLH1 and MGMT genes in colon mucosa adjacent to implanted cancer in athymic mouse	イタリア発送済
犬塚 貞明	福岡歯科大学一般消化器外科	Lipid Peroxidation and Superoxide Dismutase Activity in Host Tissues and Serum of Mice with Dextran Sulfate Sodium-Induced Colitis	著者修正
加地 到	大阪市市立豊中病院 内科	Cytodiagnostic criteria for intrahepatic dysplastic nodules as a predictor for hepatocellular carcinoma : Outcomes of 39 patients with nonmalignant nodules	イタリア発送済
日下生玄一	国立がんセンター研究所がん研究開発部	Involvement of ARK5 in Tumor Invasion and Metastasis	イタリア発送済
堀内 秀樹	獨協医科大学病理学	A MEK inhibitor (U0126) markedly inhibits direct liver invasion of orthotopically inoculated human gallbladder cancer cells in nude mice	イタリア発送済
伊藤 寛晃	新潟大学大学院医歯学総合研究科消化器・一般外科	Detection and Quantification of Circulating Tumor Cells in Patients with Esophageal Cancer by Real-Time Polymerase Chain Reaction	イタリア発送済
加瀬 諭	鳥取大学医学部第1病理	A selective cyclooxygenase-2 inhibitor, NS398, inhibits cell growth and induces cell cycle arrest in the G2/M phase in human esophageal squamous cell carcinoma cells	イタリア発送済
竹政伊知朗	大阪大学大学院医学系研究科病態制御外科学	Identification of differentially expressed genes involved in colorectal carcinogenesis using cDNA microarray	イタリア発送済

AstraZeneca



プロトンポンプ・インヒビター

オメプラール錠¹⁰/₂₀Omeprai[®] Tablets 10・Tablets 20 オメプラゾール錠

指定医薬品

薬価基準収載

プロトンポンプ・インヒビター

オメプラール[®]注用20Omeprai[®] Injection 20 オメプラゾールナトリウム注射剤

指定医薬品

薬価基準収載

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、各製品添付文書をご参照下さい。

役員名簿

理事長 杉町 圭蔵

理事 (15名)

愛甲 孝 井藤 久雄 今井 浩三
上西 紀夫 北島 政樹 小西 文雄
杉町 圭蔵 立松 正衛 寺野 彰
平田 公一 磨伊 正義 三輪 晃一
森 正樹 門田 守人 安井 弥

会次 長 今井 浩三
期 監 愛甲 孝
事 (2名) 小保 政男

事務局幹事 (2名) 清水 伸幸

佐治 重豊
下山 省二

名誉会員・特別会員名簿

名誉会長 (1名)
大原 毅

名誉会員 (12名)

青木 照明 内田 雄三 大原 毅
小川 道雄 恩田 昌彦 金澤 暁
杉村 幸雄 曾和 融生 田原 二
長町 幸雄 長与 健夫 二川 俊二

特別会員 (20名)

朝倉 均 磯野 可一 岩永 剛
岡島 邦雄 笠原 正男 木村 健
小西 陽一 斉藤 利彦 曾我 淳
高橋 俊雄 船曳 孝彦 比企 淳
廣田 映五 平山 廉三 福富 樹
藤田 力也 武藤 一郎 武藤 之
安富 正幸 達郎 藤 泰敏

評議員名簿

愛甲 孝雄
井江 浩政
小上 紀夫
久保 重光
佐田 圭蔵
島田 孝哉
杉田 昭郎
塚本 翼夫
徳永 博紀
長西 正人
馬場 孝和
松野 紀人
宮地 博
八地 孝

尾東 行生
伊太 文慎
貝川 一明
川口 実秀
熊澤 二雄
嶋本 勝晴
砂川 正一
竜田 正俊
辻富 尚文
仲西 英弘
磨真 正義
三山 一夫
輪口 健一
船橋 晃明

浅井 利正
今太 浩哲
掛川 弘吉
又本 秋均
倉崎 幸伸
清水 衛彰
炭立 実二
寺田 正彦
豊中 彦一
西平 正博
前三 昭宏
原方 横

飯石 康二
内平 二一
大藤 俊政
加北 政博
桑島 行也
野田 二
下山 二
高橋 二
田中 二
寺内 二
名川 二
野口 二
福松 二
三森 二
吉田 二

磯崎 博司
宇都 功
沖永 広
加藤 行
北台 彦
高後 裕
嶋田 紘
白木 一
竹中 章
田下 志
藤永 雄
夏井 次
秦越 次
藤井 彦
松倉 夫
源田 成
門田 人
渡辺 光

(113名) 50音順

伊藤 久治
江上 寛
落合 志
兼松 之
国安 基
小西 雄
嶋田 裕
菅野 郎
田澤 次
田中 文
峠 孝
中新 司
服部 隆
藤村 秀
原 哉
峯 弘
安井 弥



指定医薬品
プロトンポンプ阻害剤

【薬価基準収載】
パリエット® 錠10mg
錠20mg
〈ラベプラゾールナトリウム製剤〉

●効能・効果、用法・用量及び禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

hkc Eisai エーザイ株式会社
〒112-8088 東京都文京区小石川4-6-10
http://www.eisai.co.jp

製品に関するお問い合わせ：お客様ホットライン室
☎0120-419-497 9～18時(土、日、祝日 9～17時)

PT0307-9 2003年7月作成

新入会のご案内

本学会は、1989年、日本消化器癌発生研究会として発足しました。

その後、1997年、研究会より学会となり、その活動はわが国における消化器癌に関する優れた研究成果を世界に発信し、また海外との交流を深める目的で、1996年に本学会（Japanese Society of Gastroenterological Carcinogenesis ; JSGC）の主要メンバーを中心として消化器発癌国際会議が発足しました（International Conference on Gastroenterological Carcinogenesis ; ICGC）。

さらに1999年よりイタリアの国立がんセンターと提携し、同センター発行の Journal of Experimental and Clinical Cancer Research (JECCR ; Impact Factor 所有) を本学会の機関誌として認定し、優秀演題内容を同誌に掲載しています。

当学会への入会をご希望の方はホームページ (<http://plaza.umin.ac.jp/~jsgc/>) 内の入会申込書をダウンロードしていただき、ご記入の上、下記宛先にお送り下さい。

<学会事務局>

東京大学医学部附属病院 消化管外科教室内

〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1

TEL : 03-3815-5411 (内線35141) FAX : 03-5800-9731

編集後記

世界を揺るがす事件が続発して、延期を重ねた第3回国際消化器癌発生会議が、間もなく札幌の地で本学会総会との共催の形で開催されます。海外からも多くの発表がありますが、国内の先生方からも多数の演題をご応募頂き、事務局ではプログラム作成に追われています。皆様により良い形で研究成果を発表していただけるよう鋭意準備を進めております。通常より約3週間早い本学会総会開催ではありますが、札幌は過ごしやすい時期と聞いておりますので、学会会員の皆様におかれましては奮ってご参加頂き、活発な討論が行われます事を期待しております。

さて、会員の皆様とのコミュニケーションを深め、より良い学会作りを進めるためにも、ホームページとともに本ニュースレターもさらに充実したものにしていきたいと考えております。今後も、会員の皆様からのご意見・ご要望を取り入れ、より良い紙面作りを心がけていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(学会事務局幹事)

発行 日本消化器癌発生学会事務局

〒113-8655 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学医学部附属病院消化管外科・乳腺内分泌外科内
TEL 03-3815-5411 (内線35141) FAX 03-5800-9731

発行者 日本消化器癌発生学会

編集 総務委員会

印刷 株式会社 靖文社

フッ化ピリミジンの新分類

DIF

UFT, TS-1はDIFです。
(ウラシル) (ギメラシル)



抗悪性腫瘍剤(代謝拮抗剤)

UFT ユーエフティ
® ユーエフティE顆粒

創薬 | 指定医薬品 | 要指示医薬品 | テガフル・ウラシル配合カプセル剤
薬価基準収載 | テガフル(腸溶)・ウラシル配合顆粒剤

抗悪性腫瘍剤(代謝拮抗剤)

TS-1 ティーエスワン カプセル20
ティエスワン カプセル25

創薬 | 指定医薬品 | 要指示医薬品 | テガフル・ギメラシル・
オテラシルカリウム配合カプセル剤
薬価基準収載

ユーエフティ、ティエスワンの効能・効果、
用法・用量、禁忌を含む使用上の注意につき
ましては製品添付文書をご参照下さい。

製造販売元
資料請求先
(お客様相談室)



大鵬薬品工業株式会社
〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27
TEL.03-3294-4527(代表)